

第9回全国自治体議会改革推進シンポジウムを四日市で開催しました。三重県議会は、議会改革の先進県として議会改革の取組みを全国に広めて行きたいとの思いで、これまでも議会改革推進シンポジウムを三重県議会主催で開催しており、今回は9回目の開催となりました。約10年ぶりの開催となりましたが、私が議長就任時に、久しぶりに議会改革推進シンポジウムを開催したいと申し上げ、議員



◆国道1号北勢バイパス開通◆

私の地元三重地区区間の国道1号北勢バイパス日永八郷線から国道477号線までの間の開通式に、議長として出席しました。祝辞では、これまでの北勢バイパスに関わって頂いた方々への感謝を述べましたが、様々な思い出がこみ上げてきました。私が県議に初当選した22年前は、大矢坂地区の工事に関して地元との協議が行われていました。用地に、久留倍官衙遺跡が発掘されたため、何度も議論を重ね、遺跡を残し、道路も通すといった知恵を絞り出しました。10年前には、垂坂から山之一色間が完成し、名四カントリークラブの下をトンネルで抜ける工事は非常に難所であると言われていましたが、施工者の高い技術力で、その困難を乗り越えてくれました。



3月16日 北勢バイパス開通式

2007年には、三重地区連合自治会で北勢バイパスに伴う地元課題についても要望を取りまとめ県や国に提出しました。これまでの間、これらの地域の要望に関しても県や国にて丁寧に対応いただきました。多くの地元の皆さんの思いと関係者の皆さんのご尽力が詰まった道路です。感謝の気持ちでいっぱいです。この先、中勢バイパスまでの間、一日も早い全線開通に向けて取組んで参ります。

◆小島とも子当選しました。ご支援感謝◆

7月の参議院議員選挙で、新政みえで一緒に仕事をしてきた小島とも子さんが素晴らしい得票で当選することが出来ました。ご支援いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。国との連携は非常に重要ですので、今後もしっかり連携して参ります。



小島とも子出陣式



小島とも子当選万歳

ミニ座談会・気軽にお声掛け下さい

ミニ座談会・県政報告会を行っています。皆さんと意見交換を致したく、気軽にお声掛けください。希望日時、場所を事務所 (inagaki@dream-21.jp) までご連絡いただければ駆けつけます。よろしくお願いします。

また毎月29日を「ふくの日」として、私の事務所にて「ふくの会」を開催しています。毎回テーマを決めての勉強会と懇親会です。定員15名ですが、どなたでもご参加いただけますので、詳細興味があります方は事務所 (inagaki@dream-21.jp) まで連絡をお願いします。



ふくの会

◆個人献金のお願い◆

いなぎ昭義の政治活動は皆様の個人献金によって支えられています。勝手なお願いで恐縮ですが、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

各位と議会事務局職員の皆さんの尽力で開催することが出来ました。

全36都道府県から約260人の自治体議会議員の皆さんに四日市にお越しいただきました。テーマは「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」として開催しました。駒澤大学名誉教授の大山礼子氏による「多様な意見を反映する議会へ」と題して、基調講演をいただき、私もパネリストとして参加しました。

私は、私自身が26歳で銀行を辞めて選挙に出た時に経験したことや、落選経験から感じたことなどをお話しました。また、議長として、県内経済団体をまわり、立候補に伴う休暇制度の新設や議員との副業、兼業の容認について要請活動を行ったことなど、立候補しやすい環境をどのように作っていくかといった取組みについて話をしました。

◆紀州口熊野マラソン 4時間2分23秒自己ベスト更新◆

歴史ある紀州口熊野フルマラソンに出場しました。市民マラソンランナーの榮譽と言われるサブ4（フルマラソン4時間以内の完走）を目指して、練習を重ねてきましたが、結果は、4時間2分23秒で目標を達成することは出来ませんでした。自己ベストを15分近く更新することが出来たのですが、サブ4達成できず悔しい思いです。この大きな壁を突破できるよう、今後精進したいと思います。12月の松阪フルマラソンにエントリーしましたので今度こそはサブ4達成できるよう、頑張ります。

仲間達と「STAY GOLDランニングチーム」を結成して、様々な大会に挑戦していますが、時々リレーマラソンにもエントリーしています。仲間を募集していますので、ランニングやっている皆さんぜひ、inagaki@dream-21.jpまでご連絡下さい。一緒に走りましょう。



2月2日 紀州口熊野マラソン完走



5月11日 リレーマラソン大会準優勝

◆講演・大学講義などもやっています◆

8月24日は、東京八重洲で開催されました統合医療展にて講演依頼を受け、「コロナを振り返り政治の役割を考える」をテーマに講演させていただきました。8月27日には、三重大の行政学特論の集中講義で自治体議会の講義をさせていただきました。議会活動以外のこのような貴重な経験に感謝です。



8月24日 統合医療展講演



8月27日 三重大講義

Dream21 vol.61

議長職を終え、再び新政みえ代表に就任

5月に三重県議会第114代議長を退任し、服部富男議員（自民党県議団6期）に引き継ぎました。一年間、小林副議長はじめ議員の皆さんのご理解とご協力、議会事務局の皆さんの力強いサポート、知事はじめ執行部の皆さんのご協力をいただき、本当に楽しい充実した時間を過ごすことが出来ました。

就任時に、議会改革の更なる推進、若者の政治参加と主権者教育の推進、海外との連携の推進の3点を申し上げました。一年間を振り返ると、東海北陸議長会を三重県で開催したり、三重県議会主催で8年ぶりの議会改革シンポジウムを「若者と女性の政治参画」をテーマに四日市で開催しました。また、請願のオンライン申請が可能となるよう制度を整えました。



若者の政治参加、主権者教育の推進では、みえ高校生県議会をバージョンアップしたり、出前講座を初めて大学で開催したり、地元中学吹奏楽部の皆さんによる議場コンサートを行いました。

海外との連携では、各議連の活動が活発化するよう後押しするため、各国大使館、領事館との交流を積極的に行いました。また、全国の自治体議会では初めて、インドネシア共和国友好議員連盟を設立しました。5月には知事や議連メンバーと共にインドネシア共和国を訪問し、人材交流に関するMOU締結、共和国議会、バンテン州議会との交流も図りました。



5月1日 議長として最後の定例記者会見

また、天皇陛下からご招待をいただき、春の園遊会に妻と共に出席させていただいたこと、F1日本グランプリ一開催に際し、三重県にお越しいただいた三笠宮の杉子様に二日間随行させていただいたこと、天皇皇后両陛下、秋篠宮皇嗣殿下、紀子様ご臨席の大阪関西万博開会式並びにレセプションに出席させていただいたことは、生涯忘れることのない思い出となりました。

一年間、本当に多くの貴重な経験をさせていただきました。また新しい名刺ファイルが溢れるくらい、たくさんの新しい出会いをいただきました。これからは、この得難い経験と出会いを大切に、私自身の政治活動に活かしていきたいと思います。

議長を退任し、会派に戻り、令和7年度の新体制では、再び、最大会派新政みえの代表を務めることとなりました。ホッと一休みすることなく、県政発展のため、県民の幸せのため、気持ち新たに全力を尽くして参ります。

三重県議会議員 新政みえ代表 稲垣昭義



5月16日 議長退任の本会議

いなぎ昭義のSNSでの発信力は県議会ナンバーワン！！ SNSのフォロー・YouTubeチャンネル登録をお願いします

◆いなぎ昭義公式ブログ「初心、継続。」
政策・活動報告などを発信。2007年4月からこつこつと続けています。



◆音声プラットフォームVoicy
不定期に朝6時から10分間、音声配信。



◆いなぎ昭義公式X (旧Twitter)
私の考え、素朴な感じたことを毎日発信。



◆いなぎ昭義YouTubeチャンネル
選挙や活動動画の履歴配信。



◆いなぎ昭義公式インスタグラム
主に、ワインエキスパートとして発信。ストーリーも配信しています。



◆いなぎ昭義ホームページ

いなぎ昭義

検索



昭和47年 四日市市東坂部町生まれ 大池中学校・四日市高校・立教大学法学部卒業
平成7年～10年 株式会社三重銀行勤務（現三十三銀行）
平成11年 三重県議会議員選挙出馬（26歳）416票差で次点学習塾・パソコン教室・NPO法人などを立ち上げ4年間生活
平成15年 三重県議会議員選挙30歳で最年少当選 以来4期連続当選
四日市港管理組合議会第45代議長、予算決算常任委員会委員長等を歴任
三重県手話言語に関する条例検討会座長など多数の条例検討会に携わり、議員提案条例を制定してきた。
平成28年11月 四日市市長選挙出馬 落選
ユマニテク医療福祉大学 校長他、介護・医療の仕事に関わり2年間生活
平成31年4月 三重県議会議員選挙 5期目当選 新政みえ代表就任
令和2年3月 明治大学大学院ガバナンス研究科修了
令和2年11月 日本ソムリエ協会ワインエキスパート試験合格
令和3年5月 三重県議会第115代副議長就任
令和5年4月 三重県議会議員選挙 6期目当選 新政みえ代表就任
令和6年5月 三重県議会第114代議長就任
令和7年5月 新政みえ代表就任



趣味：マラソン（令和4年、5年12月松阪フルマラソン完走）、登山、読書、ワイン（定期的にワイン会開催中）
好きな食べ物：餃子、麺類
尊敬する人物：坂本龍馬
家族：妻、息子（大学1）、娘（中3）、両親

講 師 元ヤフー株式会社 COO（最高執行責任者）元ソフトバンクモバイル株式会社常務執行役員 喜多埜 裕明氏

テーマ 「ヤフージャパンの創業から成長および IT が拓く未来」



【講演内容要約】

大学卒業後、米国に渡り、日本からの駐在家族の子ども向け(帰国子女)の教育ビジネスをしていたが、その時にインターネットと出会った。日本でもこの波はやってくると考え、10年ぶりに日本に帰り、創始者 Jerry Yang で孫正義が出資して日本法人を設立したヤフー株式会社に入社した。その当時は誰もヤフーを知らず、「ヤッホーって変な会社」(笑)と言われた。

◆なぜヤフーは成功したのか（ビジネス成功の要素）

①タイムマシーン経営

米国の成功を参考に取り入れていく（時差を活用）。取り入れる際に日本風にカスタマイズすることも重要。政治の世界でも海外に視野を広げること、先進的な施策いち早く取り入れることは重要と考える。

②スピード

1996年1月に会社設立し、4月1日にはサービスを開始した。孫正義の弟孫泰蔵が学生たちを集めて泊まり込みで準備をした。最初から100%を目指す、ニュース、天気予報、教育情報などを順次加えていった。他社より常に一歩先を行くことを意識した。

③市場

当時6兆円の広告市場があり4大マスメディアで4兆円を占めていた。もしインターネットが広がれば兆単位の市場になると考えた。市場がどのくらいの規模か、成長性があるかが重要。

④親会社

最初はほとんどが親会社のソフトバンクからの出向社員でスタート。米国の親会社ヤフーの事業ノウハウ、システムを使うことができた。

⑤パートナー

とにかくパートナーを探し、インターネットの可能性を説いて協力をいただいた。見向きもされなかったことも多かったが、どのようなパートナーと組むかは重要。ちなみに孫正義はパートナーを作るのが上手な人。

⑥マーケティング

新聞に出来るだけ取り上げてもらえるようプレスリリースに力をいれた。1997年11月株価店頭公開、2000年1株1億円が話題となり、2003年10月東証1部上場。

⑦お客様ファースト

頻繁にユーザーアンケート、リサーチを実施、たえずユーザー目線で利用し改善してきた。ビジネスが成功するコツはお客様がたくさんいることである。政治家も同じで多くの住民から支持されることが重要。

ネットバブルはいつはじけるか分からないため、広告業に加えてオークション・ショッピングを始め、「ヤフオク」という言葉が生まれた。詐欺や違法な販売が行われる問題に対処するためヤフープレミアムリリス（個人認証）を開始し、一般個人からの定額売上となった（サブスク）。更に、ブランド価値向上のためソフトバンクがプロ野球球団フォックス買収したことに伴い、ヤフードーム命名権を得た。PCからガラケー、スマホへの進化に対応するため、ソフトバンクモバイルで「Y!」ボタンを搭載し、当初はiPhoneを独占した。

常に、優位性を作り継続することと、人々のニーズに応えることを大切にし、ヤフー15年間の業績は、1997年、売上4億円営業利益0.5億円から2012年、売上3,020億円営業利益1,650億円と推移した。孫正義さんは恩人を大事にしている。今でも創業時の七大恩人会を定期的に開いている。

◆今後のビジネスチャンス

①SINGULARITY（シンギュラリティ）

AI（人口知能）が人間を超える日が来ると言われており、2045年といわれている。これからのビジネスはAI無しでは考えられない状況になっている。事務的な労働、肉体的な労働、創造的な労働が順にこれから無くなっていく。進化への対応、想像が重要である。

②Society 5.0（日本が目指す未来社会の姿）

IoT（人とモノがつながる）やAI（人口知能）、ビッグデータ解析などの先進テクノロジーを活用し、これまでの社会の課題が解決される。仮想空間と現実空間の融合が行われる。

不便、困った、あったら（できたら）便利・嬉しいという所にビジネスチャンスがある



第17回 未来創造セミナー開催

いながき昭義 VS 喜多埜裕明 対談



喜多埜 裕明氏

喜多埜：米国にいた10年は、日本企業が急成長していた時期で、米国の日本人もどんどん増え、最初生徒は30人から500人くらい抱えるようになりました。米国中で通信教育など様々なことをやっていました。しかしバブルがはじけ、家族で米国に派遣される人が少なくなってきたため、日本に帰ろうと考えました。ヤフーに決めていたわけではないのですが、いくつかのデジタル関係の会社を調べてヤフーに決めました。

稲垣：2000年にヤフー1株1億円との話がありましたが、喜多埜さんは、ヤフー立ち上げのメンバーとして1株持っていましたか？

喜多埜：私は、3株持っていました。3億円ですね。その後株数増やすために、分割、分割を繰り返したため実はもっと持っていますけどね(笑)。当時入社したての社員も20代の社員も皆1億円以上持っていたことになります。

稲垣：すごいことですね。売り上げもすごい勢いで伸びていく中で、常に新しい投資をしてこられたと思います。当時インターネットの時代が来ると考え10年、20年先を見た時にそれが当たったということですが、今から未来を見た時に、10年後、20年後はこれだというものがありますか？

喜多埜：間違いなく、その一番先頭を行っているのは孫正義さんですが、AIですね。いろんなことにAIが入り込む時代になりますね。例えば、エステ店を出店したいと考えた時、メニューや広報戦略など出店ノウハウをすべてAIが教えてくれます。たぶん政治でも同じで、選挙に勝つにはどうすればいいかと聞いたら教えてくれますよ(笑)。

稲垣：7月の参議院議員選挙で躍進した参政党などはそのようにやっているのでしょうか(笑)？

喜多埜：絶対にやっていると思いますよ。選挙では生成AIやSNSの活用が重要になってきますね。私自身は、東京都知事の小池百合子さんは親しくて、初めて都知事選挙に立候補する時に裏のネット部隊の責任者をやっていました。当時は、街コンを企画して小池さんも入って写真や動画を撮ってSNSにあげるなど戦略的にいろんなことをやりましたね。

稲垣：政治的にはネットの中で、デマや誹謗中傷などが広がり、リテラシーやファクトチェックが難しく、ネット社会の難しさ、複雑さに直面しているように思います。何か対応が必要と思いますがいかがですか？

喜多埜：これはいちごっこで、実社会でも同じで、詐欺なども普通にあります。そのことも含めて、それぞれの意識を高めることが必要ですね。事業者の努力は当然必要ですね。

稲垣：インターネットの時代になり、そのテクノロジーを活用できる人できない人といった世代間ギャップがどんどん広がるように感じますがいかがですか？

喜多埜：例えば私は60代半ばですが、人生100年と考えると、まだまだ常に新しいものには触っていききたいし、興味を持っていますね。

稲垣：喜多埜さんは現在様々な会社の役員や顧問をされていますが、今一番力を入れていること、これから力を入れていきたいことは何ですか？

喜多埜：ベンチャーを立ち上げようとしている人や、若い人たちに自分の経験を伝えて行きたいですね。志を持った人たちを大切にしていきたいです。現在、早稲田大学でも起業を育てる講座という授業を行っています。

稲垣：四日市にもスタートアップ企業や志高い若者が結構いますので、ぜひご指導いただきたいと思います。

喜多埜：呼んでいただければいつでもいきますよ(笑)。

（会場からの質問）：起業家を育てる講座に加えて、ぜひ政治家を育てる政経塾を立ち上げてもらえませんか？

喜多埜：稲垣さん一緒に何かやりましょうか(笑)。小池さんだけでなく国会議員との付き合いもたくさんありますが、政治家って大変ですよ。

稲垣：私も昨年議長として取組んだ、「若者や女性の政治参画」をこれからのライフワークにしていきたいと思っていますので、ぜひ何か一緒にやらせてください。今日はありがとうございました。



三重県会議員
いながき昭義

インドネシア議連設立・人材に関する覚書締結。

3月7日に、41名の県議で全国初の日本・インドネシア共和国友好三重県会議員連盟を設立し、私が会長に就任しました。インドネシアは人口約2.8億人の世界で4番目に大きな国です。少子高齢化が進む日本の平均年齢は49歳ですが、インドネシアの平均年齢は29歳と非常に若い国です。今後更に発展する勢いのあるインドネシアと三重県の交流連携を更に深めていきたいとの思いで設立しました。

5月5日～8日の3泊4日で、知事と共にインドネシア共和国を訪問しました。保健省のグディ大臣、労働省のヤシエリ大臣との会談には、私も議長として同席しました。保健省とは、昨年7月に介護、看護分野の人材交流に関する覚書（MOU）を全国で初めて締結しましたが、今回更に内容を具体化して更新しました。労働省とは、様々な業種の技能実習生人材を三重県に積極的に送って頂くことと、本県が日本語教育の支援、人材の保護に協力することを盛り込んだMOUを締結しました。これは宮城県に続き2例目となります。

また、民間の送出し機関事業者が加入する協会（APPI）とも、三重県に優先的に人材を送っていただくようMOUを締結しました。インドネシア大学では、いわゆる技人国といわれる高度人材についての協力についてMOUを結ぶため教育省とも今後

協議をすることが確認されました。

知事の日程と離れて議連独自の活動としては、インドネシア共和国議会（BKSAP）を訪問しました。マルダニ議長、ゴベル日本インドネシア議連会長はじめ国会議員と懇談を行いました。三重県とインドネシア政府との人材交流を議会としても支援できるような会談となりました。また、バンテン州議会も訪問し、アンドラ州知事と副議長と面談しました。バンテン州の州都セランはジャカルタから西に車で1時間半くらいで、州の人口は約1,200万人、物流、港湾の要所です。政府と三重県の間で結んだMOUについて具体的なアクションについて話し合うことが出来ました。

8月22日には、インドネシア共和国移住労働者保護省のクリスティーナ副大臣が来県され、保健省、労働省とのMOUに加えて、保護省とも人材交流に関するMOUを締結することが出来ました。

この半年間で、インドネシア共和国政府との協議を重ね、それぞれの省とのMOUが締結できたことは、素晴らしい成果であると考えます。今後、具体的な取組が進むよう、議連会長として全力を尽くして参ります。



7月31日 インドネシア大使館訪問
臨時大使と意見交換



8月22日 保護省副大臣と意見交換



バンテン州知事と意見交換



保護省大臣と意見交換



共和国議会議員と意見交換



労働省大臣と意見交換